三笠山雪　左大臣實時

白雪無邊藏數峯　和光垂跡此山中　于時大樹看花處　榮色知新利物功　前右大臣實俊

三笠山さしてたのめばゑら雪のふかき心を神やゑる覽　文章博士秀長朝臣

雲井坂雨

霹靂香鞭井庭龍、乘時變化與雲從　躍飜三級禹門浪　金牓尚遺風雨蹤　權中納言爲重

村雨のはれまにこえよ雲井坂みかさの山は程ちかくとも　權大納言具通

東大寺鐘

刻桷丹楹映古城　金僊十六丈峻嶒　洪鐘撞透黃昏月　誰聽當初第一聲　前大納言善成

おく霜のはないつくしき名も高くふりぬる寺の鐘の響に

轟橋行人　權中納言冬宗

月落鐘沈山色澹　暮行失步白雲程　孤村煙雨笠簑重　一片板橋車馬轟　權中納言實遠

うちわたす人目もたえず行駒のふみこそならせ轟の橋

以上八景詩歌終

雜載

〔延喜式二十八兵部〕諸國健兒〔中略〕大和國七十人

〔日本書紀二十五孝德〕大化元年八月庚子、拜東國等國司、仍詔國司等曰、〔中略〕其於倭國六縣、被遣使者、宜造戶籍、幷校田畝〔上略〕〔下略〕